

プラハ日本人学校

大久保 瑞恵



プラハ日本人学校の子どもたちは校歌が大好きです。前を向き、目を輝かせ歌う姿をいつもうれしく思いながら見つめています。今回、校歌の歌詞になぞらえながら、プラハ日本人学校の教育活動をご紹介します。「ブルタヴァの岸边 広がる丘に 菩提樹の花気高く 昔の伝え 百塔に秘め 古城の鐘は 鳴り響く」



チェコ共和国の首都、プラハは「百塔の街」「中世の宝石」などと呼ばれている美しい街です。7月、プラハ城と街並みの見える丘で写生会が行なわれました。美しい街並みを半日眺めながら、自分の目で見た「プラハ」を紙の上に描いていくのは、難しいけれど楽しい時間です。

9月には、ウォークラリーが行なわれました。異学年混合でグループを作り、プラハ市内を散策しながら歴史や文化に関する問題を解いてまわります。この活動を通して、友達と協力する大切さを学ぶとともに、プラハのすばらしさを感じることができました。

「平和に夢と希望のせて」

学校から20kmほど離れたところにあるリジツェ村は、70年前の第2次世界大戦中にドイツ軍による報復攻撃によって破壊された村です。現在は、記念公園になっており、世界各国の代表が出席して平和を祈念した式典が行われています。

今年度も、平和学習の一環として、その時犠牲になった子どもたちの像の前で歌とリコーダー奏を披露してきました。

「肩を組み 輪を作り」

プラハ日本人学校は、小学生と中学生、合わせて101名が同じ校舎で学んでいます。お弁当交流やふれあい企画、絵本の読み聞かせなど、



委員会が中心となって交流活動を行なっています。お互い顔も名前もよく知っていて、普段から廊下で

すれ違うときや休み時間など、違う学年の友達とも笑顔で声を掛け合ったり遊んだりしているのも、この学校の良さの一つだと思います。

「世界の友と睦み合う」

先日、現地校との交流を行ないました。今回は「日本の文化を紹介しよう」をテーマに、日本の食べ物や箸、和楽器や着物のプレゼンテーションを行い、それを体験してもらうコーナーを設けました。チェコの

中学生と日本の中学生。お互い学校で習っている英語、そしてジェスチャーやチェコ語を使いながら、楽しく交流ができました。「うまく話せなくても、笑顔で通じ合えた。もっといろいろな人と交流したい」と言う子、「言いたいことがどんどん出てきて、もっと勉強してうまく話せるようになりたいと思った」と言う子、「日本の文化を好きだと言ってくれてうれしい。私ももっと日本のことを知っておきたい」と言う子。それぞれが交流から学んだことを次につなげようとしています。

「ああ我らプラハ校」

広い世界の中で、この学校で出会えた子どもたちと先生方。出会いに感謝しつつ、日々学び合っていたらと思っています。

